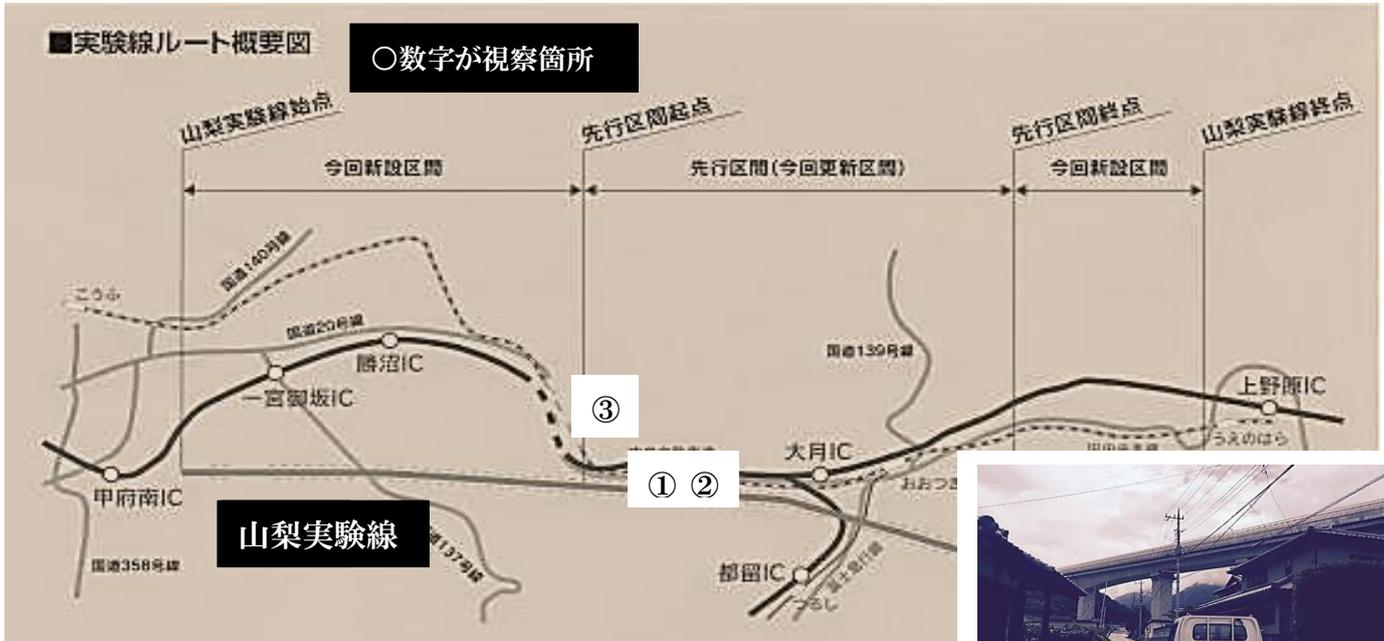


自然環境と住民生活の破壊～山梨ルートを見て 改めて知るリニア新幹線の異常さ (8月31日)

8月31日、リニア新幹線沿線住民ネット参加団体は、山梨でリニア計画の見直しを求める市民グループの案内で、42.8kmに延伸された山梨実験線と県内予定ルートとの8か所を視察しました。以下はその報告です。



① 笛吹市御坂町板野～自宅真上30mに巨大なリニア高架橋が走る→



既設の実験線の高架下に住む雨宮さんの話～「12月中旬から2月一杯は殆んど陽が当たらない。補償は夫婦二人で二部屋分、それも一日4時間の電気代(夏)、と灯油代(冬)が払われるのみ。ただしその補償は30年間限り。実験線が二尾に通るたびに音と振動がある。開業して1時間10本ともなれば、ひっきり無しに悩まされる。また最近では、携帯電話が途切れたり雑音が入るなどの影響も頻発している」。

② 笛吹市御坂町上黒駒……トンネル工事で地下水は毎分30トン流出、周辺で井戸が枯れた……

実験線の延伸工事でトンネルが掘られた場所。現在はJR東海が水路をつくって小河川に流している。その流量は毎分30トン。JR東海が言う大井川の減水は毎秒2トン。こちらの僅か3倍に過ぎず、過少な予測ではないか。地下水はやむことなく勢いよく流出し、周辺の集落では井戸枯れが起きた。また、水枯れの沢からは魚や貴重なトンボが姿を消した。こうした地下水の流出は沿線各地で起き貴重な水が喪失する。

③ 笛吹市八代町奈良原～ここでも沢枯れ、実験線より高い場所なのに

この地区の高まった奥に水田がある。実験線のトンネルから100mほど離れ、30mほど高い場所だが、沢は枯れ、急ぎよJR東海が井戸を掘って、水田に

供給している。左写真は底のコンクリートがむき出しで乾いている。右は、水田に隣接してJR東海が造った井戸。これも電気代などは30年後には土地所有者が払わなければならない。



上はリニア高架橋と地下水導水路



④リニア山梨中間駅は地盤が緩く度々冠水する場所建設予定……

山梨中間駅は甲府市大津町の県立工業技術センターに隣接する場所（現在は水田）に建設予定。この場所は昔から水はけが悪く豪雨の際には冠水するという。中央高速にスマートインターをつくり、車でのアクセスを良くするというが、中央線甲府駅から3 kmも離れており、その連絡道路の整備などの経費は地元負担となる。



⑤南アルプス市戸田地区～高架下になる14戸が立ち退きに……



戸田地区区長の高野さんらの話～「住民の理解を得てから工事を始めると言っていたのに、いつのまにか、住民の理解を得たことにして工事を始めるとJR東海は言い出した。説明会は拒否している。南アルプス市は扇状地でサントリーも売っている美味しい水が出る。工事で影響が心配。母親など女性の声も聴き、JR東海に変更を求める」。

（右は戸田地区の工事反対の幟旗）



⑥南アルプス市富士川町では地域分断

富士川町も高架でリニアがつくられる予定だが、地域の中心である公共施設が軒並み立ち退くことになる。住民にとっては寝耳に水であり、またリニアの高架橋が地域を分断することになる。こうした事態は山梨の市街地のそこかしこに生まれる。

⑦子どもたちが集う県民の森を壊してトンネルができる……

富士川町の県民の森・森林科学館は小高い山に森と広場が広がる憩いの場である。そこに、南アルプス長大トンネルの山梨県側の入り口である早川町新倉に向うトンネルが掘られる予定だ。生態系への影響や景観の喪失が心配である。

⑧悪夢のリニアの象徴、南アルプスの25kmトンネルが掘られるのがここ。近くには糸魚川静岡構造線が走る……

右写真は南巨摩郡早川町新倉のトンネル掘削予定地。右側の崖から



掘削口までの道路は狭く、拡張工事で自然破壊も心配だ

一旦橋梁で谷を渡り、左側の山から長野県側に向って南アルプスの下を掘り進む。左側にはすぐ間近に最も活発な断層帯である「糸魚川静岡構造線」が縦断しており、新倉にはその露頭が見られる。既に3 kmにわたって試掘が行なわれており、「異常出水などが見られないので、南アルプスの下を掘っても大丈夫」とJR東海は言っているそうだ。（報告・天野）

早川町新倉は予定ルートを下に
行った山梨県南部に位置する